

国際共生研究所叢書 4

国際共生と広義の安全保障

まえがき

黒澤 満

本書の目的は、国際共生の観点から広義の安全保障に関わる諸問題を検討することである。国際共生については、本書のシリーズにおいてすでに一応の定義を提示している¹。すなわち「国際共生とは、国際社会における行動主体の間において、お互いに積極的に努力し協力し、両者にとってプラスに働く状況を作り出すことであり、国際社会全体をより平和で公正なものにすることを目指すものである。また国際共生は、個々の主体間だけでなく、国際社会全体の利益を促進するという意味で地球的問題群にも関わってくる。」

このような国際共生の状況がさまざまな領域で発展しつつあり、より平和で公正な国際社会へ向けての動きが見られるが、このことは「安全保障」概念の拡大と深く関係しており、新たな広義の安全保障の領域で「国際共生」が追求され、実現されている新たな現象が生じつつある。

「安全保障」の概念の歴史的な発展を考察すれば、当初の基本的な概念は国家の安全保障（national security）であり、また軍事的安全保障（military security）であり、外部からの攻撃やその威嚇から自国をいかに守るかというものであった。それに対して自国の軍備を増強し、あるいは複数国が軍事同盟を結ぶことにより対応するものであった。国際連盟および国連の成立により、国際安全保障（international security）、すなわち国家間の安全保障という概念が導入され、そこでは国際社会全体として対応する集団的安全保

障 (collective security) の概念も発展してきた。しかしこれらの内容はあくまでも国家を中心とする軍事的な安全保障であった。

安全保障の概念は徐々に拡大の方向に進み、縦軸としては、誰の安全保障かという主体の拡大があり、横軸としては、何に関する安全保障かという対象の拡大が見られた。主体に関しては、国家から国際社会の安全保障概念への拡大とともに、一方において地球規模の問題に対処するために地球の安全保障 (global security) の概念が発達し、他方において個人の問題に対処するために人間の安全保障 (human security) の概念が発達していった。

安全保障の対象については、国家の軍事的安全保障から、軍事以外の対象に広く拡大する傾向が見られた。さまざまな安全保障が主張されてきており、たとえば、エネルギー安全保障、経済安全保障、食糧安全保障、健康安全保障、水の安全保障などが議論されている。

遠藤乾は、最近の著書『安全保障とは何か』において、「安全保障の中心に人間を定位し、その視点から、誰のための安全なのかを問い直す潮流が興隆しており、その論理的な帰結として、安全保障上の『脅威』が狭義の軍事的な性格を超えて多様化し、扱う政策セクターが拡張していることである²」と説明している。

また日本平和学会刊行の『「安全保障」を問い直す』において、編者は、「平和学は独自の平和概念に基づき、個々の人間の生命と生活の安全を直接的・構造的暴力から守ることを安全保障の問題としてきた。そして国家だけでなく、非国家主体にも安全保障の提供者としての役割を認めてきた³」と述べている。

さらに神余・星野らによる論文集『安全保障論』では、各部のタイトルは、伝統的安全保障のほかに、人間の安全保障・平和構築、人権と安全保障、新しい安全保障とされ、さまざまな安全保障の論点が議論されている⁴。

このように日本においても広義の安全保障の問題が、特に最近

広く議論されている状況において、本書は、広義の安全保障の問題を「国際共生」の観点から分析するものである。

注

- 1 黒澤満編著『国際関係入門：共生の観点から』東信堂、2011年、iv-v頁、および黒澤満編著『国際共生とは何か：平和で公正な世界へ』東信堂、2014年、i-vii頁参照。
- 2 遠藤乾「安全保障論の転回」遠藤誠治・遠藤乾編集代表『安全保障とは何か』岩波書店、2014年、50頁。
- 3 黒崎輝・佐藤史郎「平和のための安全保障を求めて」日本平和学会編『「安全保障」を問い直す』平和研究第43号、早稲田大学出版部、2014年10月、ix頁。
- 4 神余隆博・星野俊也・戸崎洋史・佐渡紀子編『安全保障論：平和で公正な国際社会の構築に向けて』信山社、2015年。

まえがき【黒澤満】	i
-----------	---

第1章

核軍縮と「人類の安全保障」	3
---------------	---

【黒澤満】

第1節 はじめに	3
第2節 核軍縮と伝統的な安全保障	4
第3節 核軍縮への人道的アプローチ	6
第4節 核兵器と人類	15
第5節 核軍縮と国際共生	23
第6節 むすび	26

第2章

平和憲法と「非戦型安全保障」	29
----------------	----

【千葉眞】

第1節 はじめに	29
第2節 平和憲法と安倍政権という反動	30
第3節 「積極的平和主義」の問題性	34
第4節 共通の安全保障から協調的安全保障への展開	38
第5節 東アジアにおける国際共生	42
第6節 むすび	46

第3章

安全保障アプローチから紛争転換を軸とした 平和アプローチへの移行	49
-------------------------------------	----

【奥本京子】

第1節 はじめに	49
第2節 安全保障の意味を問う	50
第3節 平和の意味を問う	57
第4節 「平和アプローチ」へ移行する方途	61
第5節 介入によって達成されるもの	69
第6節 むすび	70

第4章

国際共生と「共通の安全保障」	77
----------------	----

【佐渡紀子】

第1節 はじめに	77
第2節 国際共生と共通の安全保障の接点	79
第3節 戦略バランスの変化と共通の安全保障	83
第4節 主権国家の変容と共通の安全保障	87
第5節 むすび	90

第5章

国際共生の礎を築く「人間の安全保障」…………… 95

【福島安紀子】

第1節	はじめに	95
第2節	広義の安全保障認識が生んだ 「人間の安全保障」概念	96
第3節	人間の安全保障とは何か	99
第4節	人間の安全保障は21世紀の国際社会で レレバンスをもつのか	110
第5節	人間の安全保障は国際共生につながるのか	117
第6節	むすび	119

第6章

職場の労働安全と「人間の安全保障」…………… 123

【香川孝三】

第1節	はじめに	123
第2節	バングラデシュの縫製業の概要	125
第3節	ラナプラザ事件の経緯	127
第4節	労働安全確保や事後処理問題への対応	129
第5節	むすび	143

 第7章

「環境安全保障」における持続可能な開発……………	149
【西井正弘】	

第1節 はじめに	149
第2節 「持続可能な開発」概念の成立	152
第3節 環境に関する新たな安全保障の考え方	157
第4節 環境安全保障と持続可能な開発との関係	159
第5節 むすび	165

第8章

エジプトの教育改革から見る「教育の安全保障」……………	171
【長尾ひろみ】	

第1節 はじめに	171
第2節 エジプトの民主化に向かう歴史	172
第3節 新憲法に明記される教育の保証	173
第4節 教育の質	182
第5節 エジプトへの日本式教育導入にあたり不可欠な 国際共生の手法	185
第6節 むすび	189

事項索引……………	193
-----------	-----

人名索引……………	198
-----------	-----

[執筆者紹介 (執筆順、編著者は奥付参照)]

千葉 眞 (ちばしん) プリンストン神学大学、Ph.D. (政治倫理学)、専門領域：政治思想史、政治理論、平和研究、現在国際基督教大学教養学部特任教授、主要著作：『連邦主義とコスモポリタニズム』(風行社、2014年)、『「未完の革命」としての平和憲法』(岩波書店、2009年)、『デモクラシー』(岩波書店、2000年)、『アーレントと現代』(岩波書店、1996年)、『ラディカル・デモクラシーの地平』(新評論、1995年)

奥本 京子 (おくもと きょうこ) 神戸女学院大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、博士(文学)、専門領域：平和紛争学、芸術アプローチ、現在大阪女学院大学教授、主要著作：『18歳からわかる 平和と安全保障のえらび方』(共著)(大月書店、2016年)、『北東アジアの平和構築』(共著)(大阪経済法科大学出版部、2015年)、『ガルトゥング紛争解決学入門』(共監訳)(法律文化社、2014年)、『平和ワークにおける芸術アプローチの可能性』(法律文化社、2012年)

佐渡 紀子 (さどのりこ) 大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了、博士(国際公共政策)、専門領域：国際政治学、平和研究、現在広島修道大学法学部教授、主要著作：『なぜ核兵器はなくならないのかII』(共著)(法律文化社、2016年)、『安全保障論』(共編著)(信山社、2015年)、『平和構築・入門』(共著)(有斐閣、2011年)、『核軍縮不拡散の法と政治』(共著)(有信堂高文社、2008年)

福島 安紀子 (ふくしま あきこ) ジョンズ・ホプキンス大学国際関係大学院(SAIA)修士、大阪大学大学院国際公共政策研究科後期博士課程修了、博士(国際公共政策)、専門領域：国際政治学、国際関係論、国際安全保障論、現在青山学院大学教授、主要著作：『グローバルコモンズ』(共著)(岩波書店、2015年)、『紛争と文化外交』(慶應義塾大学出版会、2012年)、『人間の安全保障』(千倉書房、2010年)

- 香川 孝三（かがわ こうぞう） 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
単位取得退学、専門領域：労働法、アジア法、現在大阪女学院
大学教授、主要著作：『グローバル化の中のアジアの児童労働』（明
石書店、2010年）、『ベトナムの労働・法と文化』（信山社、2006年）、
『政尾藤吉伝－法整備支援国際協力の先駆者』（信山社、2002年）、
『アジアの労働と法』（信山社、2000年）
- 西井 正弘（にしいまさひろ） 京都大学大学院法学研究科博士課程単位取
得退学、専門領域：国際法、国際組織法、国際人権法、現在大
阪女学院大学教授、主要著書：『判例法学 [第5版]』（共著）（有
斐閣、2012年）、『テキスト 国際環境法』（共編著）（有信堂高
文社、2011年）、『国際人権法概論 [第4版]』（共著）（有斐閣、
2006年）、『地球環境条約』（編著）（有斐閣、2005年）、『図説国
際法』（編著）（有斐閣、1998年）
- 長尾 ひろみ（ながおひろみ） 大阪大学（大阪外国語大学大学院言語社会
研究科）博士後期課程修了、博士（言語文化学）、専門領域：通
訳学、現在大阪女学院大学教育研究センター長、主要著作：『医
療通訳入門』（共著）（松柏社、2007年）、『社会福祉と通訳論』（共
著）（文理閣、2005年）、『司法通訳』（共著）（松柏社、2004年）、
『グローバル時代の通訳』（共著）（三修社、2002年）、『外国人と
刑事手続き』（共著）（成文堂、1998年）、

編著者紹介

黒澤 満 (くろさわ みつる)

大阪大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学、博士 (法学)、専門領域：国際平和、軍縮、現在大阪女学院大学教授、主要著作：『核兵器のない世界へ』(東信堂、2014年)、『国際共生とは何か—平和で公正な世界へ』(編著) (東信堂 2014年)、『軍縮問題入門 [第4版]』(編著) (東信堂、2012年)、『核軍縮入門』(信山社、2011年)、『国際関係入門』(編著) (東信堂、2011年)、『核軍縮と国際平和』(信山社、2011年)

国際共生研究所叢書 4

国際共生と広義の安全保障

2017年1月31日 初版第1刷発行

[検印省略]

*定価はカバーに表示してあります。

編著者 © 黒澤 満 / 発行者 下田勝司

印刷・製本 / 中央精版印刷株式会社

東京都文京区向丘 1-20-6 郵便振替 00110-6-37828

〒113-0023 TEL 03-3818-5521(代) FAX 03-3818-5514

発行所
株式
会社 **東信堂**

Published by TOSHINDO PUBLISHING CO., LTD.

1-20-6, Mukougaoka, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0023 Japan

E-Mail : tk203444@fsinet.or.jp <http://www.toshindo-pub.com>

ISBN978-4-7989-1407-7 C1031 ©KUROSAWA, Mitsuru